

◆**単元名:**第3章 私たちの暮らしと民主政治 1節 民主政治と日本の政治

言葉で伝え合おう 「メディアリテラシーを学ぼう ～情報の入手と活用」(教科書 pp.94-95)

◆**本時の目標:**メディアリテラシーの考え方がもつ意義について理解する。/さまざまな情報を活用する際の留意点や課題について、具体例をもとに考える。

### □指導にあたって:

『クリティカル・シンキング』は、日本語では“批判的思考”と訳されるが、相手の意見を論破するようなものではなく、「多様な意見を許容しながら、全体をまとめていくこと」といった意味でとらえていきたい。一つの情報だけを鵜呑みにするのではなく、情報源を複数にすることで、意見に多様性と公平性をもたせることが可能になる。「対立と合意」の視点からも、こうした思考力が生徒に必要とされていることを理解させたい。

### □事例資料の解説・さらに活用するポイント:

#### ●左上:ジャカルタの様子【写真】

・ネット上にアップされた、インドネシアの「ジャカルタ市内の高層ビル群」の写真。実は、手前には貧しい人々が暮らす地域が写り込む大きな写真で、見せたい部分だけを切り取って加工(トリミング)されたものだった。  
⇒複数のメディアの情報をあたって比較することや、同様の写真を検索して、加工前や別のトリミングのものがないかどうか確認をすると、それが「事実」かどうかを見極める手がかりとなることを伝えたい。

#### ●左下:選挙結果の報道【新聞記事】

・記事の見出しでは「得票率が 80%だったので、大半の支持を得られた」として大きく記載されているが、サブ見出しには「投票率が 20%以下だった」ことが記載され、投票した人が少ない選挙だったことが読み取れる。よって、「大半の支持を得られた」ことには疑問が残ることがわかる。  
⇒新聞記事のメイン見出しは、読者の興味や関心を高める、センセーショナルな表現が使用されることが多い。メインの見出しだけで報道の内容をとらえるのではなく、周辺のタイトルやリード文、本文の記事をしっかりと確認したい。可能であれば、複数の新聞記事を比べながら「事実」をとらえられるとよいだろう。

#### ●右上:松本サリン事件について【ニュースなどの報道】

・1994年6月27日午後10時40分ごろ、長野県内の住宅街で、宗教団体の幹部らが猛毒のサリンをまき、8人が死亡、約600人が重軽症を負った。団体への訴訟を担当していた長野地裁の支部の裁判官官舎を狙ったとされる。第1通報者のKさんを犯人だと疑った警察とマスメディアが、批判を受けた。  
⇒複数のマスメディアが連日報道するなかで、自身も被害者で妻を亡くした Kさんは、事件の犯人の濡れ衣を着せられ、世間から非難や脅迫まで受けるなど“報道被害”に遭った。/記入欄の例:『マスメディアによる報道を複数の視点からよく確かめ、さまざまな可能性があることを踏まえて情報を受け取ることが大切だろう。』

#### ●右下:電車内の騒音【身近な生活場面】

・電車内で騒音を出す人を、迷惑そうな顔で見る女性。一見、中央に座った若い男性のヘッドフォンから漏れている音のようだが、その隣の眼鏡をかけた男性もイヤフォンをしている。実は大きな音を漏らしているのは、その男性かもしれない。  
⇒自分の価値観や直感だけで物事を判断すると、事実を誤認したり大切なことを見落としてしまったりする場合もある。自分の思考が偏っていないかどうか、客観的に判断することも大切であることに気づかせたい。